

## 音楽学が脳仕組み研究へ

——東大教授と才能教育研

音楽を学ぶ子どもの脳の働きを調べる共同研究を始めると、東京大の酒井邦嘉教授と、バイオリンやピアノなどの音楽教育を進める「才能教育研究会」が発表した。

同研究会で音楽を学ぶ中学生や高校生らがプロの演奏を聞き、どの演奏が良かったか判断する際の脳の様子を、磁気共鳴画像装置(MRI)を使って調べる。どの部位が関係しているか、どの程度個人差があるかを明らかにすることを目指す。5年程度で結果をまとめる。

酒井教授は「音楽にはメロディーやリズムなど多様な要素があり、脳のどの部分を使っているかよく分かっていない。この演奏は良かったという美的感覚に関係する脳部位を特定したい」と話している。